

第21回 教師のための実践マップスキル講座 夏季1日講座 奈良大会に参加して

葛城市立當麻小学校 仲川 百代

「早速ですが、先生方の校区に住むA君、B君、C君を想定して、その子たちの通学路にある危険箇所を地図上に描いてみてください」。優しい笑顔で次山信男先生はおっしゃいました。今、はやりの言葉で言えば「じえじえじえじえ!!!」小学校の教員で、社会科も指導する立場でありながら、あろうことか、私は地図を描くのがものすごく苦手なのです。さらに地図を読むのも苦手なのです。その日だって、私が電車を降りる近鉄奈良駅から、会場の日航ホテルのあるJR奈良駅前まで徒歩で1.1kmの道程をどう歩くかインターネットで調べたものの、道案内の掲示板と自分の持ってきた地図を比べて「北がどっちだ？ 私はどちらに行けばいいのだ？」と地図をくるくる回しながらしばらく思案……。とりあえず歩きだしてみたものの、正しいのか心配で「合ってますか？」と工事を見守る警備員さんや、ビルの玄関を掃除中のご婦人に尋ねて、予定なら15分もあれば到着するところを30分もかかったという、筋金入りの方向音痴なのです。

話をもとに戻しましょう。次山先生の一つのアクティビティは、みなさんの鉛筆を動かす音がカリカリと聞こえる中、私は手を全く付けられずもう少しで気絶しそうだったのです。しかし、次山先生が机間指導してくださったりヒントとなる言葉をかけてくださったりする中、なんとか大ざっぱな校区の地図を描くことができました。しか

し、与えられたテーマが「大地震や大火事、大水などの時に危ない!と思うところ」のチェックだったにも関わらず、私の地図は、交通と変質者での危険箇所のチェックになっていました。穴があれば入りたいとはこのことでしたが、グループのみなさんはそれも地域災害の質の違いとして受け入れてくださり、私のような場違いの不勉強な者でも楽しく学ばせていただきました。次山先生の「先生が、地図を描かなければいけません。子どもの前でああでもないこうでもないと言いながら黒板に描けば、子どもも安心して地図を描こうとするようになりますよ」のお言葉には、なんだかほっとするとともに、間違いを恐れ、無難を求めてしまう自分の指導方法を見透かされた気がしました。

次のアクティビティで、岩本先生から「見慣れた地域であっても、題材を探し視点を設け追求していけば、その特徴や歴史が見えてきて魅力ある教材となる」ことを教えて頂きました。線に沿って調べる「ライン法」やエリア内で調べる「エリア法」を使った大学生の取組例を紹介して頂き、これを学級の子どもたちに実践させる力が私に付いたら、きっと「自分だけが気づいている・知っている地域の特徴」について、わくわくしながら喜んで調べるんだろうな、と思いました。



写真① 地図の基本技能を説明する次山信男先生(中央)

「音楽室に地図を」と提言されていた田部先生のアクティビティ「教科を超える地図利用の仕方」もたいへん勉強になりました。隅田川を舞台とした楽曲「花」を題材に、地図活用の可能性について講義してくださり、音楽科での「ようすを思い浮かべて」という学習活動に地図が有効であることがよく分かりました。中学年では身近な地域の学習から始めますが、校歌に歌われている内容を、市町村の地図を重ねて見つめることから地理的な特徴や町の歴史も見えてくるのではないかと思います、ぜひやってみたいと思いました。

私は、子どもたちには、「いつも国語辞典をそばに置きなさい」と言ってきました。時間がかかりますが、辞典をくり返し引くことで語彙は豊かになり、言葉を介して物事を理解できると選択肢が増え可能性が広がると思っているからです。でもこれからは、「いつも辞典と地図帳をそばに置きましょう!」と言いたいです。地図を使えば、2Dだった理解が3Dになり、字面だけに取まらない奥行きのある思考力が働くと思います。とても良い刺激になりました。マップスキル講座に参加できてよかったです。

第21回 教師のための実践マップスキル講座

夏季1日講座 奈良大会に参加して

王寺町立王寺南小学校 中條 佳記

奈良県小学校教科等研究会社会科部会事務局の紹介により、今回の講座に参加させていただくことになった。

まず、次山先生よりハザードマップづくりについてのアクティビティがあった。現在の勤務校校区周辺の地図を描き、注意しなければならない場所を記入していく。完成したマップを隣の方とシェアリングをする。授業でも十分活用できる方法を学ぶことができた。子どもたちとともに考えながら、よりよい策を導き出していく方向性が見える活動だった。

続いて、岩本先生からは、フィールドワークとして、ホテル館内の防災マップについて説明を受ける。これまで、気づけなかった点が先生の言葉により、意識され、注目しながら館内を歩くことができた。また、ならまちの商店街を取り上げ、学生達が描いたマップを眺め、視点によって描き方やメッセージが違ってくことを体感した。

最後のアクティビティでは、田部先生から2つのことを学んだ。まず、ドットマップである。オリジナルの手作りドットを使用し、世界の人口を地図に落とし、パッと見てわかる利

点を活かし、マップを完成させた。また、音楽科と社会科の横断的な授業モデルは、「なるほど!」と思わず心の中でつぶやいた。子どもたちに地図帳を常備させるなどの授業においても地図帳を活用する方法をとってきた私にとって、歌詞から地図を読み、活用していく方法はとても魅力的だった。

午後は、岩本先生、次山先生のご講義を拝聴した。まずは岩本先生からは、江戸時代の測量士である伊能忠敬が描いた伊能図を用いたものだった。アメリカに多くが保管されていた大図を始め、中図などの説明があり、ぜひ現場での授業に活用してみたいと感じた。個人的に国土地理院に訪れたばかりであったため、刺激的なお話の連続であった。ぜひ今後の歴史授業や地図学習で活用していきたいと考えている。

最後に、次山先生のご講義だったが、ホワイトボー



写真② ドットマップの作り方を説明する田部先生(中央)

ドに大きな円を描かれ、「東西に電車が走りますので、南北に町を分けましょう」という発問があった。すでに模擬授業が始まっていた。私は小学生と同様の間違いをしてしまったようだった。先生からご指摘を受け、「よく子どももやるんですよ」とニコニコしながら、おっしゃられた。そこから、町がどのように形成されていくのか、先生から一つ一つ条件が与えられていく。その都度、「どうして?」と突っ込んで聞いていかれた。根拠を考え、述べさせるのである。適当に答えるのではなく、自分の考えを述べさせる。そして、別の子に聞いたときに、意見が違えば、次は子ども同士（このときは先生同士）でお互いに議論させる。巧みな技を垣間見ることができて、大変勉強になった。『ねりあい』

第22回 教師のための実践マップスキル講座 夏季1日講座 栃木大会に参加して

宇都宮市立西小学校 齋藤 崇晴

「子どもたちが地図を身近に感じ、楽しみながら学んでほしい」社会科の学習において、日々そのように思いながら子どもたちに指導しているが、毎日が成功と失敗の連続である。今回、地図指導の専門の先生方が栃木にいらして「実践マップスキル講座」を行うということを知り、先生方から様々な視点による指導方法について学ぶことで自身の授業力を向上させたいと思い、本講座に申し込んだ。

講座では、まず小人数のグループに分かれて3つのア

とよく言われているが、こうして子どもたちの意見を出させ、擦り合わせ、時には反論したり、同調したりしていく中で、意見を集約していく。その際の次山先生の表情が、実に楽しそうで（かなり失礼ですが）、先生自身が楽しんでいらっしゃることに、普段の授業での私自身の振り返りをするのができた。

1日学ばせてもらい、時間の経過がとても早く感じた。これから地図を扱う上での興味深いお話をたくさん拝聴し、自分にとって大変幸せな時間を過ごすことができた。地図帳を活用した日々の実践を少しずつ積み重ね、子どもたちにとってマップがより身近になるようにしていきたい。

クティビティーが行われた。1つ目は、岩本先生の「学校のまわりで『身近な地域』の学習題材をさがしてみよう」であった。先生からはまず、学習題材を探し、授業で子どもの活動を展開していくイメージについて説明をいただいた。テーマを決める際には学習課題を明確にし、現地調査や地図表現の方法まで見通しておくことが大切であることを教えていただいた。また、先生が指導されている学生が作成した地図を拝見しながら、「テーマは1つにしぼる」、「ライン・エリア法の選択」、「主観を入れない」等の地図化におけるポイントについて教えていただいた。その後、会場であるコンセーレ付近の道路を実際に歩いて、学習題材を発見する活動を行った。防災、安全・安心に関わるものも含めて多様な視点から

の題材に気付くことができ、子どもたちともぜひ実際に歩いて学習題材を発見してみたいと思った。

2つ目は、大西先生の「新旧地形図の比較を通じた身近な地域の理解」であった。先生からは、「かつての土地利用を知ること、どの土地が水害に遭いやすいかを知ることができる」と教えていただいた。実際に1907年（明治40年）と現在の宇都宮市の地図を使って、土地利用について色分けをして比較する作業を行い、「かつてはどんなところが宅地だったか」、「どんな



写真③ 巡検の際に留意すべき点を説明する岩本先生（中央右）

ところが宅地に変わったか」について考えるとともに、ハザードマップとも照らし合わせることで防災上危険な場所について理解することができた。これらの作業を子どもたちとともに行うことで、自分たちが住んでいる土地の危険度の理解や、万が一の時の避難行動に役立つと感じた。

3つ目は、次山先生の「防災と地図活用」であった。先生からはまず、校区の地図をフリーハンドで描き、防災上危険な個所について子どもの目線で吹き出しに書くという作業を行った。そして、隣の先生とワークシートを交換し、地図を見て気付いたことや疑問点についてお互いに書き込んだ。隣の先生と情報交換をすることで、自分自身が考えたことについて確信を持ったり、新たな視点に気付いたりすることができた。最後に感想を書くことで、校区の安全マップを自分の中に意識化することができ、地図学習においても自分の言葉で表出すること（言語活動）が大切であることを改めて実感した。

午後の岩本先生の講演「伊能忠敬と伊能図」も、大変興味深いものであった。日本地図を正確に描いたことで有名な伊能であるが、小図・中図は伊能図の全体の一部に過ぎず、大図こそ本来の伊能図の意義があるというお話にとっても感銘を受けた。伊能が大図で描いた日光街道と奥州街道の宿場町の地名を、現在の道路地図と照らし合わせる作業を通し、伊能の偉大なる業績がより身近に感じられると

もに、現代における道路事情の変化について読み取ることができた。

最後は、次山先生による「まちの移り変わりと地図」の講演であった。円の中に架空の町を描いていく作業であったが、「住宅団地ができると、新しい道路のまわりはようになっていくでしょうか」等の質問に対し、根拠をもとに街の移り変わりを地図に描き表わしていくことができた。次山先生の話術にも魅せられ、とても楽しみながら学ぶことができた。このようなシミュレーション的手法を教室でもぜひ取り入れ、子どもたちと楽しみながら実践していければと思った。

今回の講座は「防災と地図活用」がテーマであったが、何より子どもたち自身が自分の目や耳、足で歩き、「自分なりのハザードマップ」を描いていくことが大切であると実感した。今回学んだ地図指導のスキルをもとに、子どもたち自身が自分で発信したり地図を作ったりする活動を充実させ、子どもたちの地図学習への興味・関心を更に高めていきたい。



写真④ 地形図を土地利用別に色分けして地域の特性を調べる方法を説明する大西先生(左)

今年は何十市で8月12日、41.0℃の国内最高気温を記録したほど暑い夏でした。また、6月には「富士山」が世界遺産登録、9月には2020年の夏季オリンピック開催地に東京が決まるなど、ホットなニュースもありました。来る平成26年が皆様にとってよりよい年でありますようお願い申し上げます。

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町2丁目5番地 神保町センタービル5階

一般財団法人 地図情報センター内 実践マップスキル研究会事務局

Tel 03-3262-0846 Fax 03-3234-0872 Eメール: mapskill@chizujoho.jp.org